



南葵音楽文庫ミニレクチャー vol.4 記録

紀州徳川家と音楽 吉宗から明治まで

美山 良夫

2018年1月6日(土) 11:00

南葵音楽文庫閲覧室

1 徳川宗武(松平定信の父)は、賀茂真淵らに国学、歌学を学ぶなど、音楽や服飾に関心が深く、能楽、ついで雅楽を研究し、琴楽研究にも意欲をもった。

歴代の田安德川家はこの分野に多くの典籍、文書を集めた。なお松平定信や徳川斉匡(なりまさ、第三代当主 1779-1848)は美術に精通した。

『田安德川家蔵楽書目録』1977(岸辺成雄、平野健次、上参郷祐康らの共編)

2 徳川治宝は、管轄する各地に学問所を設置、本居宣長を召し出し、また膨大な資金を投じて雅楽の楽器を収集した。157点に上る楽器は、そのほとんどに來歴を記した文書(証書、鑑定書など)が付されている。新たに楽器をおさめる箱を作成。歴史的、音楽的、美術工芸的価値はきわめて大きい。

*レクチャーでは、スライドにより資料、美術作品、楽器等の画像を示した。学芸の振興、芸術資源の保存面での紀州徳川家の役割に関する総合調査は今後の課題とした。

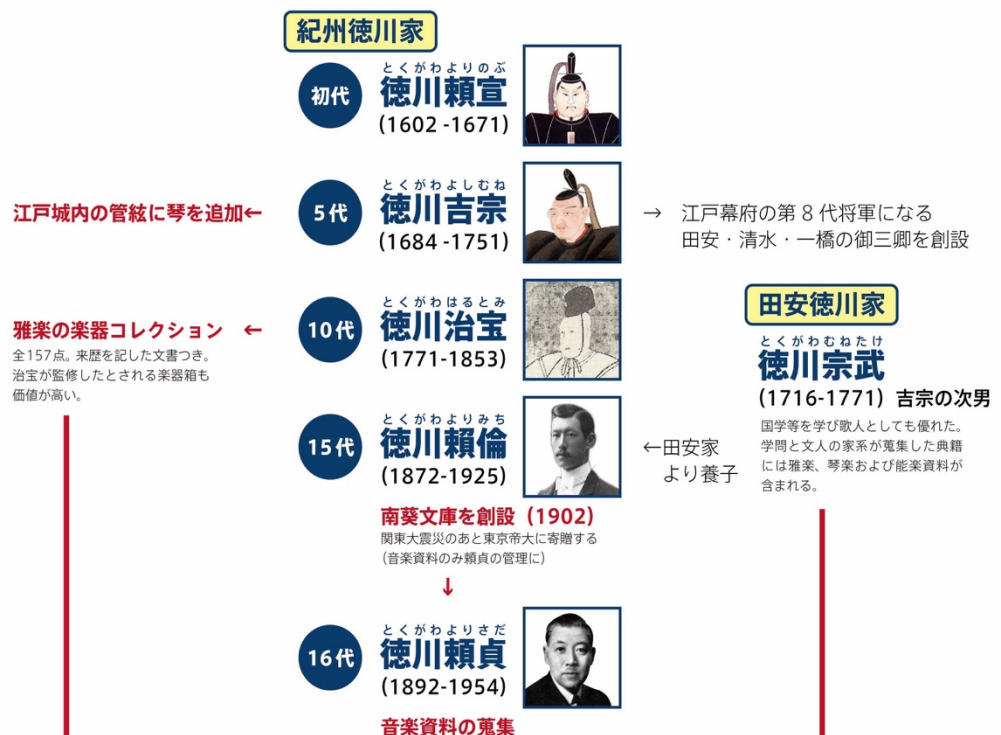
南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38



『紀州徳川家伝来
楽器コレクション』



スライドより



楽器コレクション
国立歴史民俗博物館

南葵音楽文庫
読響が和歌山県に寄託

雅楽・能楽等資料
国立国文学研究資料館